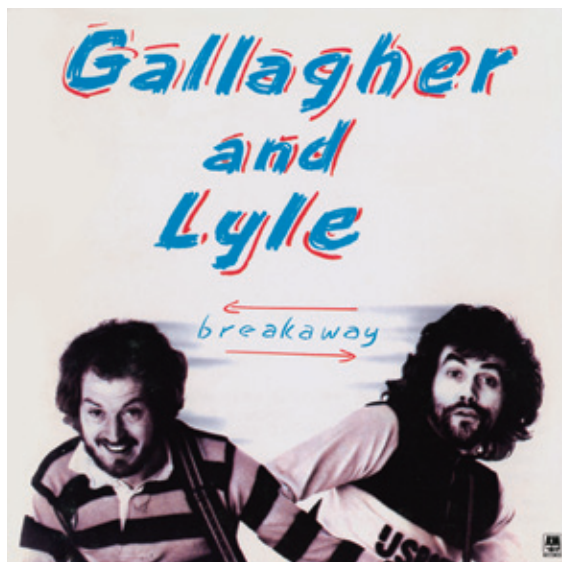


# Music

名作『フリーライド』の幻サントラの一部。  
ギャラガー&ライルの『ブレイクアウェイ』

Text: George Cockle  
文/ジョージ・カックル



70年代後半、サーファーの間で話題になり、今も語り継がれる「フリーライド」というサーフィン映画がある。これは1975年から1976年にかけてのノースショアでの記録映画だ。とはいえ、俺はその映像や内容はあまり覚えてなくて、サウンドトラックになっていた音楽が頭に残っている。きっとこの映画は、他の70年代のサーフィン映画と同じで、映像はすごかっただろうが、ほとんどストーリーがなかったのだろう。しかもサントラアルバムはレコード店でも売られていなかった。後でわかったのは、フィルムメーカーのビル・デレーニーは勝手に音楽を使い、レコード会社やアーティストから許可を取っていなかった。もちろんDVDにもなっていない。監督のビルは大きなスクリーンで見てほしかったと言っているが、きっと音楽の許可が取れなかったのだろう。サントラを欲しい人達は、ブートレグ(海賊版)のアルバムを買うか、一つひとつアルバムを見つけて自分でテープを作るしかなかった。

で、今回紹介するのは、その映画「フリーライド」で流れていた曲のなかでも、気に入ったアーティストのアルバムだ。サーフィンをバックに流れていたのは、サーフィン

映画では珍しく、当時メジャーデビューしていたアーティストの作品ばかりだった。パブロ・クルーズ、アンディ・フェアウェザー・ロウ、ジョン・アーマトレディング、ビリー・プレウトン、ハミングバードと、今回紹介しているギャラガー・アンド・ライルだ。彼らの曲は3曲入っていた。「ステイ・ヤング」、「ブレイクアウェイ」、「カントリー・モーニング」。彼らの曲はすごくメロウで、今ならサーフロックと言われるであろうアコースティックサウンドだった。その中の2曲は、この1976年リリースのアルバム「ブレイクアウェイ」に入っている。

今でこそ許せるが、僕はレコード屋でこのアルバムを見た時はショックだった！ アルバムのジャケットに辟易した。ジャケットという言葉があるが、それはあり得ない出来だった。なにしろジャケットの写真はサーファーとは結びもつかない男性ふたりが、ローラースケートをしているし、100歩譲ってもダサかった。ローラースケートなんて大人がやる物じゃなかったしね。英語では「トーターリー・アंकール」という。直訳すると、まったくもってクールじゃない。その上に彼らが着ているシャツも、冴えなかった。ひと

りはボーダーの襟付きポロシャツ。もう一人はロングスリーブの偽物スポーツウェア。どう見ても、サーファーじゃないし、海の匂いも全然しない。し、しかし俺はそのアルバムを買ってしまった。

でもレコード店のインフォメーションを読んでもわかったのは、メンバーがふたりともスコットランド出身だったことだ。海とは関係ない人達だった。彼らは元々、イギリスのフォークロックバンド「マクギニス・フロント」のメインのソングライター達だった。オレはすでにこのバンドのアルバムを持っていて、大好きだった。そうか、もともと好きなアーティストだったんだと納得した。このアルバム「ブレイクアウェイ」は、あの映画に流れているアーティスト達のなかでも、一番聴いているかもしれない。彼らの見た目は海を感じさせないが、サウンドは海の潮風を感じさせてくれる。



ジョージ・カックル ● 60～70年代のロックに精通し、ラジオ・パーソナリティとしてインターFMや東京FMで活躍中。鎌倉出身・在住。波乗り歴40年の親父サーファー。  
[www.whatsupmusicinc.com](http://www.whatsupmusicinc.com)